

受付番号	2025-17		
許可番号	大歯医倫 第 111407 号		
研究課題名	口腔に主訴をもつ患者における well-being とライフスタイルおよび健康状態についての関連因子の検討		
研究責任者	永久 景那	申請者	永久 景那
研究終了日	2027 年 3 月 31 日		
所属	口腔リハビリテーション科	所属	口腔リハビリテーション科
職名	講師	職名	講師

申請の概要

昨今、各世代・各個人としての well-being^{*}が注目されている。世界幸福度調査では、日本人の幸福度は比較的低い傾向にあるとされており、「幸福」の概念要素における「仕事・お金・健康・人間関係」の「安定・調和」等の影響が大きいとの報告もある。本学附属病院に通院する患者においては、中でも、「健康の安定」は重要とされる項目ではないかと考える。しかしながら、患者の中には、「人間関係」が歯科治療の効果に何かしらの影響を及ぼしているのではないかと、とも考えられる。本研究では、「人間関係」構築の一つである、食事時の人との交流（共食・孤食）、つまり、社会的孤立が心身および口腔の健康に影響を及ぼす、と問題提起した。よって、本研究では、口腔リハビリテーション科に通院する患者を対象とし、食事環境等のライフスタイルや健康状態および well-being に関するアンケート調査を行うことにより、患者の well-being に影響を与える因子の関連性について検討することを目的とする。患者の健康状態については、アンケート調査の他、診療に伴って得られる情報（主訴、既往歴、家族歴等の患者背景因子）とも紐づけして検討する。本研究によって、口腔に主訴をもつ患者における well-being とライフスタイルおよび健康状態と、歯科治療の効果についての関連性を明らかにすることができれば、歯科医療従事者として、患者や公衆に向けて、well-being の維持・啓発アプローチの一助となる可能性が期待される。

^{*}本研究での well-being とは、個人にとって、より良く、幸せを感じることができる、「身体的な健康」「精神的な（心の）健康」「社会との繋がり」の 3 つの項目がバランスよく満たされた状態、と解釈する。